

定B  
359

14.21-362



\*1200600364075\*

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



朝鮮總督府中央試驗所報告 第七回 第二號

甘草ノ栽培及其製品ニ就テ

政立  
務調査館

10.7. 8



定B  
359

14.21

362

定B  
359

\*1200600364075\*

立憲民政黨  
政務調査館

## 甘草ノ栽培及其製品ニ就テ

技師馬場治郎

### 緒言

甘草ハ和名ヲ「あまく」ト稱シ支那ニ於テハ蜜甘、蜜草、美草等多クノ別名アリ。蝶蝶科ニ屬スル *Glycyrrhiza* 屬ノ落葉植物ニシテ西班牙、伊太利、露西亞、支那等ニ野生シ又栽培セラル。内地本土ニ於テハ本屬植物中 *Glycyrrhiza echinata*, L. ヲ産ス（松村氏植物名彙ニ依ル）朝鮮ニ於テハ未タ本屬ノ植物發見セラレズ。

甘草ハ太古ノ時代ヨリ東西兩洋ニ於テ藥用トシテ使用セラレ和漢三才圖會ノ所載中ヨリ拔萃スレハ本綱。春生青苗枝葉如槐高五六尺七月開紫花

此草治七十二種乳石毒解一千二百般草木毒

現今ハ主トシテ調味藥、緩和藥、賦形藥トシテ應用シ其使用量モ亦逐年增大セリ、日本藥局方ニ於テハ原植物トシテ *Glycyrrhiza glabra*, L. var. *glandulifera*, Regel. et Herder ヲ採用シ又滿洲地方ニ產スル *Glycyrrhiza echinata*, L.

モ前植物ニ代用ス。

大正十一年度朝鮮ニ於ケル甘草ノ輸入移出量左ノ如シ。

大正十一年度（總督府調查ニ依ル）

甘草ノ栽培及其製品ニ就テ

甘草輸入量	移出量
一九一、八〇五斤	一二一、五五九斤
四三、二一一圓	三三五二圓

右ノ調査ニ依リ朝鮮内ニ於テ一ヶ年ノ消費量大約十七八萬斤内外ト見做シ大差無カラ。然ルニ目下全部之カ供給ヲ隣邦支那ニ仰クノ状態ニ在リ依テ尠クトモ自給自足ノ途ヲ講ズルノ必要有リト信ス。

## 一 耘 培 法

甘草ハ寒温何レノ地方ニモ生育シ得ルモ寧ロ稍寒冷ナル氣候ヲ好ムカ如シ、地質ハ排水良好ナル砂質土壤ヲ最良トシ潤潤地及ヒ粘土質土壤ヲ除キテハ何レノ土壤ニモ生育良好ナルカ如シ、繁殖法ニハ種子及ヒ走根ヲ使用スル二方法有ルモ當所ニ於テハ支那、滿洲產ノ *Glycyrrhiza echinata*, L. ノ種子ヲ使用セリ。

### 1 直接播種法

當所ノ栽培地ハ砂質土壤ナルモ濕潤セル瘠地ニシテ排水極メテ不良ニシテ甘草ノ栽培ニハ適等ナラズ。四月上旬土地ヲ耘耕シ土塊ヲ碎キ表面ヲ整ヘ畦ヲ一尺餘ノ幅トシ之ニ稀釋セル糞尿ヲ施シ大約一尺ノ間隔ヲ置キ播種セリ播種後薄タ土地ヲ被ヒ輕ク押ヘ風雨ニ依ル種子ノ移動ヲ防ギタリ。

初芽後二回稀釋セル糞尿ヲ施シ初年二回除草及ヒ間引ヲ行ヒ間引品ヲ以テ發芽セサル場所及ヒ枯死セル場所ニ補植シ翌年ヨリ施肥ヲ行ハス除草ハ以後年二回ニ止メタリ。

### 2 苗床法

苗床ハ土地ヲ深耕シ幅四尺長三間ノ苗床ヲ作り之ニ稀釋セル糞尿ヲ施シ種子ノ周圍間隔ヲ大約一寸内外ノ程度ヲ以テ種苗床ハ土地ヲ深耕シ幅四尺長三間ノ苗床ヲ作り之ニ稀釋セル糞尿ヲ施シ種子ノ周圍間隔ヲ大約一寸内外ノ程度ヲ以テ種

子ヲ撒布シ薄タ土地ヲ被ヒ輕ク押ヘ發芽後二回稀釋セル糞尿ヲ施シ初年二回間引及ヒ除草ヲ行ヒ翌年本圃ノ畦間ヲ一尺トナシ株間ヲ大約一尺トシテ移植セリ移植後ハ施肥ヲ行ハス初年二回除草ヲ行ヒ枯死セル株ハ苗床ヨリ補植シ翌年ハ年二回除草シ以後年二回ニ止メタリ。

右二法ノ栽培地ニ約一尺五寸ノ歩道ヲ造リタルヲ以テ植附株數ハ一段歩約八千五百本ノ割合ナリ從ナ一段歩約一萬本前後植附ノ餘地有リト信ス。

## 二 栽培甘草根ノ採掘

播種後三ヶ月及ヒ五ヶ月ノ秋期ニ於テ採掘シ水ニテ洗滌シ土砂ヲ除去シテ蔭干シ乾燥セリ。風乾品ハ褐色ノ抱皮ヲ被リ圓筒狀ヲナシ粘液質及ヒ蛋白質ニ富ムヲ以テ粘固シ縦割又ハ粉碎シ難シ長サ三年根ニ於テ二尺二三寸、五年根ニ於テ二尺五六寸、横斷面ノ直徑ハ根ノ上部ニ於テ三年根○、八一、二cm五年根ニ於テ一、一、五cmニ達ス皮部ハ暗色ノ新生組織輪ニ依リ鮮黃色ノ木質部ト明ニ區別セラル木質部ニ於テハ髓ヲ缺如ス。

收獲比較左表ノ如シ。

三年根一反步收獲量(風乾品)

○直接播種法

八十貫

價格金一百二十五圓

一年割當金四十二圓弱

五年根一反步收獲量(風乾品)

甘草ノ栽培及其製品ニ就テ

○苗床法

九十貫

價格金一百四十圓

一年割當金四十七圓弱

## ○直接播種法

一百十貫

價格金一百七十二圓

一年割當金三十四圓強

(右價格ハ府内漢材藥局四箇所ノ評價ヲ平均セルモノニシテ十六貫金ニ十五圓ト上ス。)

右表ニ依リ明ナル如ク三ヶ年以後ノ生育率ハ三ヶ年以前ノ生育率ニ及ハズ從テ當所ノ栽培試験ノ成績ニ依リ繁殖栽培法ハ苗床法ヲ可トシ收獲期ハ三ヶ年ヲ可ナリト認ム。

右一ヶ年割當金ハ種子代、肥料代、人夫賃ヲ計上控除セサルニ依リ右収益ヲ以テハ到底耕地ニ栽培ハ經濟上不可能ナルモ砂質ノ瘠地又ハ荒蕪地ノ利用上甘草ノ栽培ハ甘草ノ生育力頑強ナルヲ以テ有望ナリト信ス。

## 三 耘培甘草ノ成分試験

本試験ニ於テハ五年根風乾品ノ枹皮ヲ除去シテ供試品トセリ。

(1) 水 分

本品ヲ細末トナシ一〇〇—一〇五度ニ於テ五時間乾燥シ水分ヲ定量セリ。

(2) 灰 分

本品ノ細末ヲ灰化シ灰分ヲ定量セリ。

水 分 一四、二六%

灰 分 二、七五%

## (3) 純蛋白質

本品ノ細末二〇gヲ取り之ニ水二〇〇ccヲ加ヘ大約十分間八〇度ニ温メ次ニ三〇分間重湯煎上ニ煮沸シ水酸化銅〇、四gニ相當スル水酸化銅混液ヲ加ヘテ善ク振盪シ冷後濾過シ水ヲ以テ洗滌シタル後沈澱物ヲ濾紙ト共ニ「きえだる」分解剤ニ移シ窒素ヲ定量シ之ニ六、二五ヲ乘シ蛋白質ニ換算シ定量セリ。

純蛋白質 七、二五%

## (4) 「あんもにあ」及ヒ「あすばらざん」

本品ノ細末二〇gヲ取り之ニ三〇%「あるこはーる」四〇〇ccヲ加ヘ一時間半還流冷却器ヲ附シ重湯煮上ニ煮沸シ冷後濾過シ殘渣ニ更ニ同一酒精一〇〇ccヲ添加シ一時間重湯煎上ニ煮沸シ前後ノ酒精浸出液ハ之ヲ合併シ減壓ノ下ニ酒精及ヒ水分ヲ蒸發シ殘渣ニ水一〇〇ccヲ加ヘ暫時熱シテ溶解濾過シ濾液ハ更ニ減壓下ニ蒸發シ概略半量トナシ之ニ硫酸ヲ少量宛徐々ニ加ヘテ大約五%ニ達セシメニニ燒ウオルフラム酸溶液ヲ加ヘ生スル沈澱ヲ濾過シ沈澱ハ五%ノ稀硫酸ヲ以テ洗滌シ濾液洗液ハ之ヲ合併シ徐々ニ少量宛稀苛性カリヲ滴下シ微酸性ヲ度トシ更ニ水ヲ加ヘテ全量ヲ五〇〇ccトナス。

右微酸性溶液五〇〇cc中ヨリ二五〇ccヲ取リ之ニ強硫酸六ccヲ加ヘ、二時間煮沸シ冷却後前項ト同一方法ニ依リ過剰ヲ加ヘ温度五〇度及ヒ一八mmノ減壓下ニ於テ「あんもにあ」ヲ十分定規硫酸中ニ一時間蒸餾シ「あんもにあ」を定量せり。

「あんもにあ」

〇、二八%

前記「あんもにあ」定量ニ使用ノ殘液二五〇ccヲ取リ之ニ強硫酸六ccヲ加ヘ、二時間煮沸シ冷却後前項ト同一方法ニ依リ「あんもにあ」ヲ定量シ此ノ「あんもにあ」量ヨリ前項ニ於テ得タル「あんもにあ」量ヨリ窒

## ○苗床法

一百二十貫

價格金一百八十七圓強

一年割當金三十七圓強

素ヲ算定シ「ぐるたみん」及ヒ「あすばらざん」ヨリ生スル窒素ヲ凡テ「あんばらざん」ヨリ生スルモノト見做シ之ノ窒素量ニ九・四二%乗シ無水「あすばらざん」トシ定量セリ。

「あすばらざん」

一・八一%

(5) 葡萄糖、蔗糖、ぐりちりちゃん酸

此ノ三者ノ定量ハ大體ニ於テ Eriksson 氏ノ法 (Archiv. der pharm. 1911, 157) ヲ施行セリ。

甘草細末一〇〇gヲ約同容量ノ硝子末ト混和シ分液漏斗ニ入レ之ニ水五〇〇ccヲ添加シ更ニ苛性加里液一ccヲ加ヘ時々振盪シ一晝夜放置シ濾過シ殘渣ニ稀苛性加里液(水一〇〇gニ苛性加里液三滴ヲ加フ)二五〇ccヲ加ヘ前操作ヲ反覆シ濾過シ殘渣ハ水ニテ洗滌シ濾液及ヒ洗液ハ之ヲ合併シ硫酸ヲ以テ中和シ水ヲ加ヘテ一〇〇ccトナス之ニ九〇%酒精一〇〇ccヲ添加シ重湯煎上ニ熱シ粘液質ヲ沈澱セシメ濾過シ濾液及ヒ洗液ハ合シテ減壓ノ下ニ蒸餾シ大約一〇〇ccトナシ之ニ水ヲ加ヘテ五〇〇ccトナス。本溶液ヲ(a)トナス、(a)溶液中ヨリ一〇〇ccヲ分取シ「ぐりちりちゃん」酸ノ定量ニ使用シ殘部四〇〇ccヲ蔗糖及ヒ葡萄糖ノ定量ニ使用ス。

(a) 溶液ノ殘部四〇〇ccニ稀硫酸ヲ徐々ニ攪拌シツ、添加シ「ぐりちりちゃん」酸ヲ沈澱セシメ又沈澱ノ生ゼザルニ至リ二時間放置シ濾過シ沈澱ハ一%硫酸水ヲ以テ洗滌シ濾液及ヒ洗液ヲ合併シ中和シ之ヲ蒸發シテ四〇〇ccトナス本溶液ヲ(b)トナス。(b) 溶液ヲ二五〇cc及ヒ一五〇ccニ二分ス。

4 葡萄糖

前記(b)溶液ヨリ分取セル二五〇ccヲ蒸發シテ大約一〇〇ccトナス。「ふりんぐ」溶液(ありん法)六〇ccヲ取り水六〇ccヲ混和シ熱シテ沸騰スルニ至リ前記糖液一〇〇cc中ヨリ二五〇ccヲ分取シテ添加シ更ニ二分間沸騰ヲ持続セシム次ニ析出

セル亞酸化銅ヲ金屬銅ニ還元シ定量セリ。

一・三・四%

■ 蔗 糖

前記(b)溶液ヨリ分取セル一五〇ccノ糖液ヲ蒸發シテ一〇〇ccトナシ十分定規鹽酸三〇ccヲ加ヘ硝子管ヲ附シ沸騰重湯煎内ニ於テ三〇分間熱シタル後冷却シ十分定規加里液三〇ccヲ加ヘテ中和シ水ヲ加ヘテ全量ヲ一五〇ccトナス。

「ふりんぐ」溶液(そくすれと法)五〇ccヲ取り之ニ前記糖液五〇ccヲ加ヘタル後熱シテ沸騰スルニ至リ更ニ二分間沸騰ヲ持続セシメ析出スル亞酸化銅ヨリ金屬銅ニ還元シ得タル銅量ヨリ前項葡萄糖定量ニ検出シタル銅量ヲ控除シ其残餘ノ銅量ニ相當スル轉化糖ヲ求メ之ニ〇・九五%乗シ蔗糖ヲ定量セリ。

蔗 糖

一・四二%

八 ぐりちりちゃん酸

前記(a)溶液ヨリ分取セル溶液一〇〇cc中ヨリ二一〇ccヲ取り之ニ稀硫酸ヲ徐々ニ攪拌シツ、添加シ「ぐりちりちゃん」酸ヲ沈澱セシメ沈澱ノ起ラサルニ至リ二時間放置シ濾過シ沈澱ヲ五%ノ硫酸水ヲ以テ洗滌シ水流「ほんぶ」ヲ以テ可及的水分ヲ吸引濾過シ沈澱及ヒ濾紙ヲ九〇%酒精五〇ccヲ加ヘ十五分間熱シテ濾過シ濾紙ハ同酒精ヲ以テ洗滌シ濾液及ヒ洗液ハ合シテ蒸發シ酒精及ヒ水分ヲ除去シ殘渣ヲ稀苛性加里液五〇ccヲ以テ溶解シ之ヲ濃大ナル「こるべん」ニ入レ「ふりんぐ」溶液(ありん法)二一〇ccヲ加ヘ還流冷却器ヲ附シ石綿鋼上ニ一五時間煮沸シ亞酸化銅ヲ析出セシメ金屬銅ニ還元シ銅量ヨリ葡萄糖ノ量ヲ求ム。「ぐりちりちゃん」酸ハ加水分解ニ依リ「ぐりくろん」酸二分子ヲ生ス。



## ぐりちりちゃん酸

ぐりちるれちゃん酸

ぐりくろん酸

葡萄糖及ヒ「ぐりくろん」酸ハ各「あるでひーご」基一箇ヲ有シ「ぐりくろん」酸二分子ハ葡萄糖二分子ニ相當シ「ぐりち  
ちゃん」酸分子ニ相當ス。「ぐりくろん」酸ノ表無キヲ以テ葡萄糖ノ表ヲ用フ。  
即チ得タル葡萄糖ノ量ニ一、七七ヲ乗シ「ぐりちりちゃん」酸ノ量トナス。

ぐりちりちゃん酸 六、四九%

Eriksson 氏ハ氣候、土壤、肥料ニ依リ甘草ノ成分ニ大ナル影響有リトセリ。今氏ノ歐州各國產ノ葡萄糖、蔗糖「ぐりち  
りちゃん」酸ニ就キ調査スル處ニ依レハ左表ノ如シ。

	葡萄糖	蔗 糖	ぐりちりちゃん酸
伊太利產(乾燥品)	一、三九一、四三	一、四一二、五七	六、六五一七、一〇
西班牙產	一、二八	三、二〇	六、四八
露西亞產	少 量	六、五〇	七、七〇
同 上	一	二、六〇	八、一五
	一	六、七二	

當所ノ栽培品ニ就キ右表ト對比セハ葡萄糖ニ於テハ歐州產ニ比シテ優リ蔗糖ニ於テ劣リ「ぐりちりちゃん」酸ニ於テハ稍劣  
ルモ大體ニ於テ大ナル遜色ヲ見ス。

由來植物體内ニ於テハ酵素ニ依リ合成分解行ハレ春季、秋季ニ於テ各糖分ニ變化ヲ來シ又春季ト秋季ニ依リ「あすばら  
ざん」及ヒ蛋白質トノ間ニ變化ヲ來スハ疑フ入レサル處ナリ。從テ甘草ノ成分ニ就テモ又甘草根ノ採集時期ニ關係シ又  
甘草根ノ年齢ニ關係スルモノ思考ス。

## 四 甘草「えきす」製造

甘草「えきす」製造ニ於テハ日本藥局方規定ニ依リシヲ以テ其製法ヲ記載スレハ

「甘草粗剝截根末一分ヲ取リ之ニ五分ノ常水ヲ注ギ四十八時間冷浸シ壓漉シ其殘滓ニ常水三分ヲ注キ十二時間冷浸シ  
壓漉シ漉液ヲ合シテ蒸發シ其全量ヲ三分トナシ之ニ酒精一分ヲ混和シ二日間冷處ニ放置シ濾過シ濾液ヲ蒸發シテ稠厚

「えきす」トナシ製ス可シ。」

右規定ニ從ヒ「えきす」ノ製造ヲ行ヒシモ其時期八九月ノ際ナレハ常水ヲ以テ四十八時間冷浸ニ際シ往々醣酵ヲ起シ易ク  
從テ葡萄糖ヲ失ヒ「えきす」ノ品質ヲ低下スルノ虞有リ依テ浸出液一立ニ對シ「くろろほるむ」三四滴ヲ滴下溶解セル浸出  
液ヲ用ヒ醣酵ヲ防止シ得タリ、甘草粗剝截根末二缶ヲ用ヒ六〇六〇六〇ノ「えきす」ヲ得。

本「えきす」ノ試驗成績左ノ如シ。

「えきす」收率(風乾根末ニ對シ) 三〇、二八%

「えきす」中ニハ「くろろほるむ」現存セズ。

水 分	三二、二四%
葡萄糖	三、三二%
蔗 糖	六、九一%
「ぐりちりちゃん」酸	一七、九三%

## 五 「ぐりちりちん」酸鹽ノ製造

風乾品ノ粗剣截末ヲ取り之ニ大約四倍ノ常水ヲ添加シ時々振盪シ、二十四時間放置シ次ニ壓濾シ壓搾殘渣ハ更ニ四倍ノ常水ヲ添加シ時々苛性加里液ヲ滴下シ振盪シ常ニ浸出液ノ微ニ「あるかり」性反應ヲ呈スルヲ度トシ二十四時間放置シ壓搾漏過シ漏液ハ前回ノ漏液ト合併ス、合併浸出液ハ尙微酸性反應ヲ呈スルヲ度トシ二十四時間放置シ漏過シ更ニ蒸發シテ大約十分一量トナシ次ニ稀硫酸ヲ以テ酸性トナシ「ぐりちりちん」酸ヲ沈澱セシメ三十分間放置シテ漏過シ沈澱物ハ稀苛性「あるかり」ニ溶解シ漏紙モ稀「あるかり」ニテ洗滌シ前後ノ漏液及ヒ洗液ヲ合シ更ニ稀硫酸ニテ酸性トナシ「ぐりちりちん」酸ヲ沈澱セシメ三十分間放置シ次ニ大約五倍量ノ常水ヲ添加シ振盪シ數時間放置シ傾瀉法ニ依リ上澄液ヲ除去シ殘部ヲ水流「ほんぶ」ヲ用ヒテ吸引漏過シ可及的ニ水部ヲ除去シ之ヲ漏紙ト共ニ秤量シ之ニ五倍量ノ酒精ヲ加ヘ重湯煎上ニ十五分煮沸シ粘液質、蛋白等ヲ析出セシメ温ニ乘シテ漏過シ漏液ハ蒸餾シテ酒精ヲ回収ス。酒精ハ使用量ノ大約八〇%回収シ得。

蒸餾殘渣ハ稀薄「あるかり」液及ヒ「あんもにあ」ヲ以テ中和シ蒸發乾固シテ加里鹽「なとりうむ」鹽「あんもにあ」鹽ヲ製造セリ。

加里鹽及ヒ「なとりうむ」鹽ハ各黑色ヲ呈シ「あんもにあ」鹽ハ黒褐色ヲ呈ス、各三鹽ハ甘味ヲ呈シ水ニ極メテ易溶ナリ。但シ「あんもにあ」鹽ハ苛性「あるかり」鹽ニ比シ稍不安定ニシテ分解スルノ虞アリ。

檢體各一延ヲ用ヒ(風乾品)各鹽ノ收得率左ノ如シ。

「かりうむ」鹽	七一、〇%
「なとりうむ」鹽	六七、〇%

理論數ノ	九六、三%
同	九六、三%

「あんもにあ」鹽	六五、五gr
	同
	九六、二%

「ぐりちりちん」酸加里一磅ヲ製造スルニ要スル費用左ノ如シ。

金三圓十三錢 (原料甘草約二貫ノ原料代)

金五十錢 (消費酒精一磅代)

金二十錢 (硫酸約二〇〇g代)

金五十錢 (苛性加里二〇〇g代)

金五十錢 (煉炭二十五個燃料代)

合計 金四圓八十三錢

以上ハ甘草ノ中等品ヲ使用セル製造費ナルモ本品ノ製造ニハ劣等品ヲ使用シ大差無キヲ以テ原料ノ選擇又ハ廢物利用的ニ本品ヲ製造スレハ尙製造費ノ低廉ヲ期シ得。

## 六 「ぐりちりちん」酸鹽ノ發泡試驗

Dr Ludwig Koffer 氏ニ依レハ (Zeit. f. Unters. d. Nahr. u. Genussmittel, I, April, 1922) 氏ハ發泡試驗物質一gヲ取リ水ニテ溶解稀釋シ之ノ稀釋液一〇〇ml一、六mlノ試驗管ニ取り十五秒間強々振盪シ十五分間放置シ泡沫層ノ高サヲ測定シ其ノ層ノ高サ一cmナル時之ノ稀釋溶液ノml數即チ一mlニ對スル稀釋度ヲ以テ發泡數トセリ。

本試驗ヲ行フニハ檢體一gヲ取り一定量ノ水ニ溶解稀釋シ直徑一、六cmノ試驗管十本ヲ取り之ニ右稀釋液ヨリ一、二ml「四・九、十」ml宛ヲ各試驗管ニ入レ之ニ水ヲ添加シテ各一〇mlトナシ前記規定ノ振盪法ヲ行ヒ其泡沫層ノ高サ一cmニ達スル試驗管ヲ撰定シ其發泡數ヲ定ム若シ各試驗管ノ泡沫層一cmヨリ高キ場合ニハ前回使用ノ一定量ノ稀釋液ヨリ適宜ノ

量ヲ分取シ更ニ一定量ニ稀釋シ前記ノ振盪試験ヲ反覆シ其發泡數ヲ定ム。予ノ製品「ぐりちりちん」酸鹽ノ三種ニ就キ其發泡數ヲ試験セル成績左ノ如シ。

發 泡 數	「あんもにあ」鹽	「なとりうむ」鹽	「かりうむ」鹽
一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一〇、〇〇〇弱	一一〇、〇〇〇

D. Ludwig Kofbr 氏カ種々ノ「さばにん」ニ就キ試験セル發泡數左ノ如シ。

發 泡 數	Digitonin Merck	Sapindus Saponin	Saponin Merck	Sapotoxin	Guajac-Saponin Merck
二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	九、五〇〇	三三三、〇〇〇	五〇、〇〇〇	二八、五〇〇

以上ノ「さばにん」ト發泡力ヲ比較スレハ發泡力ニ於テ「ぐりちりちん」酸鹽ハ發泡力中位ノ「さばにん」ニ畧匹敵ス。「ぐりちりちん」酸鹽溶液ノ色相左ノ如シ。

溶 液 稀 釋 度	(一千倍)	(一万倍)	(二万倍)
ぐりちりちん酸あんもん	黃褐色	淡黃色	微ニ黃色
ぐりちりちん酸そーだ	黃褐色	淡黃褐色	淡黃色

ぐりちりちん酸加里 黃褐色 淡黃褐色 淡黃色

由來「さばにん」ハ發泡力ニ富ミ比較的無毒性ノ者無キニ有ラサルモ其毒性「さばにん」ノ種類ニ依リテ一定セズ激毒ヲ有スル者又甚多シ從テ發泡性酒精飲料、發泡性清涼飲料水ニ添加セラル、場合ニ於テハ其種類及ヒ其毒力ヲ判定スルハ甚タ至難ナリ。從テ衛生上無害ニシテ發泡力ニ於テ大差ナク又價格比較的低廉ニテ又色相試験ニ於ケル如ク本「ぐりちりちん」酸鹽ハ發泡劑及着色劑ノ二者ヲ兼有シ得ルカ故ニ發泡劑及着色劑トシテ本品ハ優秀ナルモノト信ス。今加里鹽ヲ二合罐入ノ清涼飲料水ニ使用スルト假定スレハ

(本品一磅)	五 千 倍	一 萬 倍	二 萬 倍
清涼飲料水	五、〇〇〇本	一〇、〇〇〇本	二一〇、〇〇〇本
原 價	一本當リ	一本當リ	一本當リ
四圓八十三錢	九、七毛	四、九毛	二、五毛

即チ一罐ノ内容ヲ一磅ト假定シ一萬倍ノ本品溶液ヲ用フルモ猶一本ニ使用スル費用四、九毛ニ過キサルナリ尙清涼飲料水ニ使用ノ場合ニハ「からめる」ニ代用シ得ルニ於テヤ。

## 七 結 論

- 一、甘草ノ生育ハ至テ頑強ナルヲ以テ瘠地、荒蕪地ヲ利用セハ栽培事業有望ナリト信ス。
- 一、栽培法ハ苗床ヲ可ナリト信ス。
- 一、收穫期ハ三箇年後ヲ可ナリト信ス。
- 一、滿洲產甘草ノ栽培品ハ歐洲產ト對比シテ多クノ遜色ナシ。

「夏期甘草」えきす」ノ製造ニハ「くろほるむ」ノ添加ヲ必要ナリト信ス。

「ぐりちりちゃん」酸鹽ノ製造ニハ苛性「あるかり」鹽ヲ可ナリト信ス。

「ぐりちりちゃん」酸鹽ハ發泡力、着色力、價格ヨリ發泡性酒精飲料、發泡性清涼飲料水ノ製造ニ於テ「さばにん」又ハ他ノ發泡劑、着色剤「からめる」等ノ代用品トシテ理想的ノモノト信ス。

終

